

1 教科の到達目標（学習のねらい、身に付けたい力）

- (1) 対象や事象を捉える創造的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的な良さや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

2 年間学習計画と単元(題材)

学期	題材名・単元名	内容	達成目標(ねらい)
1	・「日本美術を学ぶ・琳派、仏像」(鑑賞)	・琳派の作品や仏像を鑑賞し、作品の良さや作者について学ぶ。 ・日本芸術の総合的な学習。	(思)画面に描かれているものを再確認する。 (主)見方や感じ方を広げる活動に取り組もうとしている。 (知)構図や色使いなどに作者の意図が隠されていることを知る。
	・「ルネサンスの画家」(鑑賞)	・ルネサンスの画家の作品を鑑賞し作品のよさや作者について学ぶ。 ・ルネサンスの総合的な学習。	(主)見方や感じ方を広げる活動に取り組もうとしている。 (知)構図や色使いなどに作者の意図が隠されていることを知る。
2	・「和菓子の制作」(彫刻)	・和の立体表現の理解、構想、デッサン、芯材 制作の作業、着色、塗装。	(思)テーマに沿って豊かな発想や創意工夫をする。 (思)樹脂粘土の特性を理解し、効果的な形や色彩表現を生み出す。 (知)描画、着色などの技術を向上する。
3	・「屏風絵の制作」(デザイン、絵画)	・テーマの設定。 ・アイデアスケッチ。 ・下絵と着色。色々な表現技法。	(思)イメージにあった題材の選定。 (思)効果的な表現方法の選択をする。 (思)屏風の伝統や構図を理解し、効果的な構図や色彩を形として表現する。 (知)題材の美しさを、金屏風を用いて表す。
	・「自分の印鑑を作ろう」(工芸・彫刻)	・彫刻の理解。 ・文字のデザイン、研削、印刷、持ち手の彫刻。	(思)自分の名前を工夫して印鑑に適したデザインにする。 (知)道具類を正確に使用して研削する。 (思)自分なりの工夫された印鑑を作る。

3 評価方法

各観点	評価基準	評価方法
知識・技能	・美術、美術史についての知識理解をもとに創作に反映させる力。 ・紙やアクリル絵の具などの道具や用具の基本的な扱い方を理解し、正しく使って自分の思い通りの作品に仕上げる力。 ・色や形などの性質を理解し、自分の作品に生かし仕上げる力。	○アイデアスケッチ ○完成作品（制作状況を含む） ○ワークシート、鑑賞プリント ○提出物 ○定期考査

思考・判断・表現	・ものをよく見る力、気付き発見する力。 ・豊かな感情や考え、空想力や想像力を広げイメージする力。 ・新しいもの、斬新なもの、ユニークなものを考え出す力。 ・想像力を働かせ、作品に表わされた作者の 心情や意図、そして表現の工夫を感じ取り、多様な表現の良さや美しさなどを味わい、鑑賞に親しむ力。	○アイデアスケッチ ○完成作品（中間状況を含む） ○ワークシート ○アイデアスケッチ ○定期考査
主体的に学習に取り組む態度	・より良いものを作り出そうとする態度。 ・課題の理解から完成した作品まで、良い表現のための工夫や方法を導き出そうとする姿勢。 ・立案、計画、実習、検証、反省、全体を通して自ら考え実践しようとする態度。	○定期考査 ○授業での発表、発言 ○鑑賞プリント(鑑賞時間の様子を含む)

4 授業の取組についてのアドバイス

(ア) 授業の受け方と心構え

「授業は学びの場」であることを忘れずに、集中して自分の課題、作業に取り組みましょう。また、他の人の集中の妨げにならないように注意しましょう。

(イ) 授業に準備するもの

教科書・資料集・ファイル・筆記用具（美術では鉛筆、消しゴムを必ず用意してください。）以上4点が基本的な持ち物です。その他、課題によって用意するものがありますが、事前に授業で連絡します。限られた時間を大切に使うために、忘れ物のないようにしてください。

(ウ) 宿題について

普通の授業では、基本的に提出を必要とする宿題はありません。（課題に必要な題材を自分で用意する場合があります。）

5 家庭学習の進め方についてのアドバイス

美術の時間は週に1～2時間しかありません。課題に対しての、アイデアや構想は美術の時間だけでは不足しがちです。授業中で考えたことは家庭学習でまとめておき、次の時間で作業にスムーズに入れるようにしておきましょう。普通の生活の中から、課題を常に意識して「おもしろいもの、楽しいもの、きれいなもの」など、参考になりそうなものを記憶に留めておきましょう。できれば、写真に撮っておいたり、スケッチしたりして、自分なりの参考資料を増やしておきましょう。

6 定期考査への取組についてのアドバイス

美術の考査は課題、目的、内容、実習方法などの授業中の確認事項が主になります。

教科書・資料集・プリント・ワークシート・板書などを復習しておきましょう。

7 苦手な人の取組についてのアドバイス

「絵には自信がなくて、美術は苦手。」と思う人がいるかと思いますが、大切なのは「絵が上手」なことではなく「より良くなろうと努力する」ことです。表面上の上手、下手に関係なく、地道な努力を重ねましょう。このことが技術面の向上につながり、内面的にも成長することになります練習することで上手になり、続けることで上達します。あきらめることなく粘り強く頑張りましょう。